

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第三千八百六十號

昭和十六年八月一日(金)

海軍大臣官房

○ 令 達

官房第七八九號ノ四

昭和十六年官房第七八九號中左ノ通改正ス

昭和十六年八月一日

海 軍 大 臣

支那方面艦隊軍法會議ノ項中法務官ノ欄「兼務二人」ヲ「兼務一人」ニ、備考欄中「法務官一人」ヲ「法務官二人」ニ改ム

参照 昭和十六年官房第七八九號ハ支那事變中海軍法務官、録事、警査配員ノ件ナリ(二月十七日海軍公報(部内限))

○ 通 牒

官房第四一二三號

昭和十六年八月一日

各 廳 長 殿

海 軍 省 副 官
軍 令 部 副 官

葬儀等ニ於ケル弔電ニ關スル件申進

今般遞信省告示第六百四十號(七月二十二日官報掲載)ニ依リ慶弔電報ノ取扱ヲ中止セラレタル趣旨ニ鑑ミ當方ニ於ケル弔電ハ當分ノ間左記ニ依リ弔辭ヲ以テ之ニ代フルコトニ定メラレ候

記

一 戰死者ノ場合

海軍大臣ノ名ヲ以テ戰死者遺族ニ贈ル弔問電並ニ官公署主催村葬以上ノ葬儀施行ノ場合ニ於ケル海軍大臣及軍令部總長ノ弔電ハ之ヲ弔辭トシ海軍士官、高等文官ニ在リテハ海軍省人事局、特務士官以下ニ在リテハ在籍鎮守府ニ於テ調製シ遺族又ハ葬儀主催者宛傳達スルモノトス但シ海軍大臣代理、軍令部總長代理派遣セララルル場合ハ其ノ弔辭ヲ贈ルコトナシ文案ハ概ネ從來ノ弔問電程度トス

二 航空機事故死亡者ノ場合

(イ) 當該所轄長ハ左ノ例ニ示ス弔辭ヲ調製シ遺族ニ傳達スルモノトス

海軍公報(部内限) 第三千八百六十號 昭和十六年八月一日

九九三

0402

(一) 高等官(豫備員ヲ含ム)ノ場合

弔辭

海軍大尉・・・・君ノ殉職ヲ悼ミ謹ミテ弔意ヲ表ス

昭和 年 月 日

海軍大臣・・・・

(軍令部總長・・・・)

(二) 判任官以下(豫備員ヲ含ム)ノ場合

弔辭

海軍飛行兵曹長・・・・君竝ニ海軍一等整備兵曹・・・・君ノ殉職ヲ悼ミ謹ミテ弔意ヲ表ス

昭和 年 月 日

海軍次官・・・・

(軍令部次長・・・・)

(三) 高等官及判任官以下ヲ含ム場合

弔辭

海軍飛行特務少尉・・・・君竝ニ海軍三等整備兵曹・・・・君、海軍一等飛行兵・・・・君ノ殉職ヲ悼ミ謹ミテ弔意ヲ表ス

昭和 年 月 日

海軍大臣・・・・

(軍令部總長・・・・)

(ロ) 海軍葬儀施行後官公署主催村葬以上ノ葬儀施行ノ場合ニ於ケル海軍次官ノ弔電ハ之ヲ弔辭トシ海軍士官ニ在リテハ海軍省人事局、特務士官以下ニ在リテハ在籍鎮守府ニ於テ調製シ主催者宛傳達スルモノトス

文案ハ概ネ從來ノ弔電程度トス
海軍航空本部長ノ弔電モ本號ニ準ジ取計フモノトス

三 在職者死亡ノ場合

當該所轄長ハ左ノ弔辭ヲ調製遺族ニ傳達スルモノトス

文案ハ第二號ノ例ニ準ズ

イ 勅任官以上死亡ノ場合 海軍大臣弔辭

ロ 奏任官死亡ノ場合 海軍省人事局長弔辭

ハ 特別ノ場合ハ別ニ考慮ス

四 前諸號以外ノ死亡者ニ對スル場合ハ弔電ニ代フル

ニ弔辭ヲ以テスルノ外從來通海軍省人事局ニ於テ取扱フモノトス

五 弔辭ノ用紙ハ奉書卷紙ヲ用フルヲ例トス

軍務一第一七九號

昭和十六年七月三十一日

海軍省軍務局長

各鎮守府
各要港部
各艦隊 參謀長殿

既成艦船ニ「ラジオ」受信機及同用高聲器
ノ供給數並ニ裝備個所標準ノ適用範圍ニ關
スル件申進

昭和十一年官房第五三九號(昭和十五年官房第五七
八三號改正)中既成艦船ニ對スルラジオ裝備ニ關シテ
ハ左記ニ依リ特令シテ實施スルコトニ定メラレ候
尙特設艦船ニ對スル「ラジオ」裝備ニ關シテハ別途研
究中ニ有之候

記

- 一、大改装特定修理ノ時機ニ標準通實施ス
- 一、從來未裝備ノモノ(敷設艇、哨戒艇、驅潛艇、第
一號型第十三號型)ハ豫算ノ成立ヲ俟テ實施ス
- 一、戰艦及七千噸以上巡洋艦ニシテ長官公室ノ施設ア
ルモノニハ時機ヲ得次第標準通實施ス
- 尙右艦種ニ於テハ長官公室又ハ司令官公室ノ何レニ
對シテモ高聲器ヲ裝備スルモノトス
- 一、其ノ他
- 交流電源ノミヲ使用スル驅逐艦ニ對シテハ時機ヲ得
次第直流電源ヲ使用シ得ル如ク改装ス

海人第一號ノ二一八

昭和十六年八月一日

海軍省人事局長

關係廳長殿

海上勤務ニ關スル件申進

自今外國又ハ内南洋ニ於ケル部隊若ハ其ノ他ノ各部勤
務員ニシテ警備、港務作業、測量、補給等ノ爲常時其
ノ附屬艦船ニ乘組ムベキ配置ニ在ル者ニ對シテハ服役
期間及停年計算規則第五條第五號ノ規定ニ準ジ海上勤
務ト爲スコトニ定メラレ候

追テ右該當者ニ對シテハ昭和十二年海人第一號ノ一
〇四ニ準ジ處理相成度

(參照 諸例則卷二、一九四ノ二頁)

軍需機密燃第三六三號

昭和十六年七月三十日

海軍省軍需局長

關係各廳長殿

再生航空礦油供給ニ關スル件通牒

爾今第三海軍燃料廠ニ於テ再生セル航空礦油(現用規
格ニ適合ノモノ)ハ新品同様艦船部隊ニ供給可致候

海軍公報(部内限)第三千八百六十號 昭和十六年八月一日

九九五

0404

追テ廢輕質油及廢礦油ノ回收並ニ處理ニ關シ昭和十四年軍需機密第七號(艦營需品燃料取扱例規四〇一頁)及昭和十五年軍需燃第八四號(十月二十二日部内限公報)ヲ以テ申進及通牒ノ次第アル處時局ニ鑑ミ更ニ一層之ヲ徹底實施セシムル様配慮相成度

○ 辭令

南洋應氣象臺技師 川崎 英男

「パラオ」ニ於ケル地磁氣觀測事務囑託ヲ解ク(三十七日海軍省)

朝鮮總督府技師兼道技師 福西 正雄
朝鮮總督府技師 朝山 景烈
(各通)

朝鮮總督府土木事務官 高須 清一
海軍燃料廠鑛業部ニ於ケル鎮南浦繫船工事業務囑託ヲ解キ第五海軍燃料廠鎮南浦繫船工事業務ヲ囑託ス(三十一日同)

遞信局事務官 生野 豐水
第九海軍軍用郵便所長ヲ免シ第二海軍軍用郵便所長ヲ命ス

遞信局書記 大脇 爲正

(各通)

通信事務員 守田 次雄
集配員 平田 爲治
同 永野 太三

第九海軍軍用郵便所員ヲ免シ第一海軍軍用郵便所員ヲ命ス

(各通)

通信書記 山中 武久
集配員 坂本 重雄

第九海軍軍用郵便所員ヲ免シ第二海軍軍用郵便所員ヲ命ス

(各通)

遞信局 市川 涉
遞信局書記 中里 典夫
通信事務員 比嘉 仁靜
同 田中 德義
同 柳生 正夫
同 岩下 敬二
集配員 爲岡 福督
同 木練 清志
同 滿潮萬右衛門
同 田畑 信義

第九海軍軍用郵便所員ヲ免シ第六海軍軍用郵便所員ヲ命ス(以上一日同)

森本 幸壽

特務艦國洋丸ニ於ケル通信事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額貳千六百八拾參圓ヲ給シ部内限奏任

官待遇トス(六〇〇同)

拓務省通譯生 吉田 德太郎

大本營海軍部ニ於ケル事務ヲ囑託ス

海軍少將 雪下 勝美

海軍大學校ニ於ケル調査事務兼海軍省事務囑託ヲ解

ク(以上七〇〇同)

中央航空研究所研究官 福田 秀雄

第十一聯合航空隊ニ於ケル教授囑託ノ報酬トシテ金

參百圓ヲ贈與ス

第十一聯合航空隊ニ於ケル教授囑託ヲ解ク(七〇〇同)

(各通) 京都帝國大學教授 可知 貫一

農事試驗場技師 寺尾 博

海軍省事務兼海南警備府事務ヲ囑託ス

臺北帝國大學教授 磯 永吉

(各通) 臺灣總督府技師 鈴木 進一郎

海軍省事務兼海南警備府事務ヲ囑託ス

農事試驗場技師 三井 進午

(各通)

農林技師 江村 俊吉

同 尾崎 三雄

海軍省事務兼海南警備府事務ヲ囑託ス

興亞院技師 岡村 淑一

海軍省事務兼海南警備府事務ヲ囑託シ部内限判任官

待遇トス

宮坂 梧郎

臺灣總督府技師 前田 穂濤

海軍省事務兼海南警備府事務ヲ囑託ス(以上七〇〇同)

第二遣支艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額四千參百貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官

待遇トス(七〇〇同)

(各通) 伊藤 和雄

海軍省事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス(七〇〇同)

海軍少佐 橋本 逸夫

(各通) 海軍大尉 石田 捨雄

昭和十六年八月施行ノ海軍兵學校海軍機關學校及海

軍經理學校生徒採用試驗臨時委員ヲ命ス

海軍大尉 渡 邊 久

海軍公報(部内限) 第三千八百六十號 昭和十六年八月一日

九九七

0406

(各通)

海軍機關中佐 山崎 義

海軍教授 北澤 彌吉郎

昭和十六年七月及八月施行ノ海軍兵學校海軍機關學校及海軍經理學校生徒採用試験臨時委員ヲ免ス
(以上三十一日同)

海軍少將 七田今朝一

海軍省事務ヲ囑託ス

近江 政太郎

海軍省事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

加藤 三郎

海軍省事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

小野 鑑正

百五拾圓

田中 豊

五百圓

湯淺 龜一

四百圓

宗宮 尙行

參百圓

真島 正市

百五拾圓

田中 敬吉

百五拾圓

星合 正治

參百圓

三島 德七

貳百五拾圓

牧 銳夫

參百圓

岡田 要

(通各)

貳百圓 同

志村 繁隆

參百圓 東京帝國大學助教授

木下 昌雄

百圓 同

牧島 象二

參百圓 同

平田 森三

貳百五拾圓 京都帝國大學教授

堀場 信吉

七百五拾圓 同

西原 利夫

七百五拾圓 同

西村 秀雄

七百五拾圓 同

澤村 宏

貳百五拾圓 同

木村 正路

七百圓 同

藤本 武助

百五拾圓 同

長尾 不二夫

七百圓 京都帝國大學助教授

中山 若枝

貳百五拾圓 東北帝國大學教授

青山 新一

七百五拾圓 同

増本 量

貳百圓 同

遠藤 彦造

七百圓 東北帝國大學助教授

實吉 純一

六百圓 九州帝國大學教授

渡邊 惠弘

六百圓 同

原田 恭介

六百圓 北海道帝國大學教授

池田 芳郎

貳百圓 大阪帝國大學教授

友近 晋

七百圓 同

太田 友彌

七百圓	大阪帝國大學助教授	寺澤 一雄
七百圓	同	雄山 平三郎
參百圓	東京工業大學教授	内田 俊一
五百圓	同	尾本 義一
百五十圓	同	田端 耕造
參百圓	同	古賀 逸策
百圓	東京工業大學助教授	瀧澤 益二
七百圓	仙臺高等工業學校教授	堀川 初夫
百圓	氣象技師	正野 重方
七百圓	電氣試驗所技師	仁科 存
(各頭書ノ通)ヲ贈與ス		
海軍技術研究所ニ於ケル研究業務ヲ囑託ス		
從四位勳四等 妹尾 秀實		
但シ報酬年額五百圓ヲ給シ部内限勅任官待遇トス		
百圓	大野 貫二	
百圓	關 英男	
四百圓	正八位 庄野 唯衛	
(各通) 五百圓	川原田政太郎	
貳百圓	岩片 秀雄	
海軍技術研究所ニ於ケル研究業務ヲ囑託ス		
從六位		
正五位勳六等		
八百圓		
海軍技術研究所ニ於ケル研究業務ヲ囑託ス		
但シ報酬年額(各頭書ノ通)ヲ給シ部内限奏任官待遇トス		
淺居 ちか		
正六位 杉本 五十鈴		
大島 重義		
齋藤 定藏		
柳澤 七郎		
從六位 小林 勝一郎		
濱田 成徳		
岡田 千里		
井口 泰輔		
正八位 小林 宏治		
守田 榮		
門奈 五兵		
正八位 下村 尙信		
納富 次郎		
中島 茂		
森 壽治		
海軍技術研究所ニ於ケル研究業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス		

海軍公報(部内限)第三千八百六十號 昭和十六年八月一日

九九九

南洋廳氣象臺技師 菅原 芳生

水路部ニ於ケル事務ヲ囑託シ報酬年額百圓ヲ贈與ス

臺灣總督府州港務官海軍大佐 草川 淳

馬公要港部ニ於ケル事務ヲ囑託ス

山崎真一郎

支那方面艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

(各通)

仲吉 朝興

許斐 林太郎

中野 楠雄

伊藤 太郎

早坂 一宗

海軍警備府ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

第四海軍建築部醫療業務囑託ヲ解ク(以上ハ同)

海軍主計大佐 池田 賢一

東京海軍監督官事務所及受持區域内ニ在ル艦裝具事務所ニ要スル俸給、旅費及手當支拂ノ爲資金前渡官吏ヲ命ス

海軍機關中佐 松崎 正康

浦賀海軍監督官事務所及受持區域内ニ在ル艦裝具事務所ニ要スル俸給、旅費及手當支拂ノ爲資金前渡官吏ヲ命ス

務所ニ要スル俸給、旅費及手當支拂ノ爲資金前渡官吏ヲ命ス

海軍主計中佐 清水 新一

名古屋海軍監督官事務所ニ要スル俸給、旅費及手當支拂ノ爲資金前渡官吏ヲ命ス

海軍主計中佐 善木 豐

大阪海軍監督官事務所及受持區域内ニ在ル艦裝具事務所ニ要スル俸給、旅費及手當支拂ノ爲資金前渡官吏ヲ命ス

海軍主計大佐 服部 薫

神戸海軍監督官事務所及受持區域内ニ在ル艦裝具事務所ニ要スル俸給、旅費及手當支拂ノ爲資金前渡官吏ヲ命ス

海軍機關大佐 木原 直孝

廣島海軍監督官事務所ニ要スル俸給、旅費及手當支拂ノ爲資金前渡官吏ヲ命ス

海軍主計中佐 徳永 春雄

八幡海軍監督官事務所ニ要スル俸給、旅費及手當支拂ノ爲資金前渡官吏ヲ命ス

海軍造兵大尉 深井 六郎

室蘭海軍監督官事務所ニ要スル俸給、旅費及手當支拂ノ爲資金前渡官吏ヲ命ス

拂ノ爲資金前渡官吏ヲ命ス

海軍機關中佐 竹内 悌三

長崎海軍監督官事務所及受持區域内ニ在ル艦裝員事務所ニ要スル俸給、旅費及手當支拂ノ爲資金前渡官吏ヲ命ス

海軍主計特務少尉 佐藤 義雄

資金前渡官吏ヲ免ス(以上前支出官 海軍省經理局長)

海軍機關特務中尉 西 松太郎

在東京監督長ノ命ヲ承ケ服務スヘシ(二十五日海軍航空本部)

○ 雜 款

○司令潜水艦一時變更

第十二潜水隊司令ハ七月二十八日司令潜水艦ヲ伊號第七十潜水艦ヨリ伊號第六十九潜水艦ニ變更セリ

○司令驅潛艇復歸

第十一驅潛隊司令ハ七月十日司令驅潛艇ヲ第七號驅潛艇ニ復歸セリ

○郵便物發送先

特設砲艦金剛山丸ハ今般當隊ヨリ除カレタルニ付自今

同艦宛郵便物ハ直送相成度

(第二砲艦隊)

○事務所設置

函館在勤海軍武官府ヲ七月二十七日函館市末廣町九番地金森ビルディング内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

電話 六二三番

海軍公報(部内限)第三千八百六十號 昭和十六年八月一日

一〇〇一

0410

○艦船所在

指▲印△ハカノ
定ヲ要セズ

○八月一日午前十時

【横須賀】

春日▲、劍埼▲、山城▲、陸奥▲、駒橋▲

▷多摩

澤風▲

伊一六、伊一七、伊四、伊五

室戸

【翔鶴】▲(津輕)▲(伊二三)▲(伊三三)▲

伊三七▲

【長浦】▲

伊六▲、伊六二▲

哨一▲、哨二▲

尻矢

【石川島】

驅潜一七▲

【鶴見】

驅潜一八▲

能登呂

【川崎】

筑紫▲

【横濱】

秋雲▲

【浦賀】

濱風

【館山灣】

石垣▲

【八戸港】

伊五二

【大湊】

驅潜一五、驅潜一三、驅潜一四

哨三五▲

大泊

【吳】

淺間▲、八雲▲、鬼怒、阿武隈、神通

夏湖、峯雲、夕立、口初雪、白雪、吹雪

朝雲、山雲、夏雲、天津風、初風、口霞、陽炎

呂五七▲、呂五八▲、呂五九▲、伊五三▲

伊五四▲、伊五五▲、伊五八▲、伊一二二▲、伊七四、伊七五、伊七〇、伊六八、伊一二一▲、伊七三、伊七二、伊七二驅潜特五一▲、驅潜特五二▲、驅潜特五三▲、哨四六▲

樫野、隱戸、鳴戸、間宮

【大阪】

(日進)▲、(伊二七)▲、(伊三五)▲、(伊七六)▲

國後

【神戸】

驅潜二一▲

瑞鶴▲、(伊良湖)▲、(伊一〇)▲、(伊二五)▲、(伊三二)▲、(伊四)▲、(伊一一)▲

【相生】

伊六〇▲

【玉】

驅潜二〇▲

【德山】

潮、曙、朧、漣

朝日

【佐伯】

瑞鳳、鳳翔

夕風、三日月、黒潮

伊三一、哨三一、哨三三

鶴見

千代田

【伊豫灘】

吾妻▲、大井▲、木曾、龍田

薄雲▲

鳩、口鷲

呂三四▲

哨三六▲、哨三七▲

海軍公報(部内限)第三千八百六十號

昭和十六年八月一日

一〇三

0411

【佐世保】

(夕雲)▲ 那智、加賀、香椎、出雲
白露、有明、夕暮、時雨
呂三〇▲、呂三二▲、呂三三▲、呂三五▲、呂三六▲、呂三八▲、呂三九▲、呂四〇▲、呂四二▲、呂四三▲、呂四四▲、呂四六▲、呂四七▲、呂四八▲、呂五〇▲、呂五一▲、呂五二▲、呂五三▲、呂五四▲、呂五五▲

【古江】

峯風、沖風
野分、朝顏▲、芙蓉▲、舞風
驅潜一六
伊二四▲、伊二九▲、伊三九▲

【羅府】

石廊、安宅、二見、伏見、比良、熱海
宇治、勢多、堅田、保津、網田、足柄
鳥羽、古守、嵯峨、橋立、磐手、名取
八丈、日向、伊勢、扶桑、比叡、霧島
長門、金剛、加古、衣笠、古鷹、青葉
榛名、羽黑、熊野、三隈、最上、鈴谷
愛宕、摩耶、那珂、初鷹、白鷹、蒼鷹
利根、筑摩、那珂、初鷹、白鷹、蒼鷹
八重山、天龍、常磐、夕張、迅鯨、香取
鹿島、五十鈴、赤城、蒼龍、飛龍
龍驤、神威、千歳、瑞穂、蒼龍
球摩、北上、勝力、沖島、瑞穂、蒼龍
栗、梅、蓮、劉萱、秋月、水無月、羽風
朝風、旗風、文月、卓月、雷
菊月、夕苗、若竹、白雲、東雲、電
浦波、綾波、磯波、敷波、夕霧、朝霧

【航海中】

早朝野島
(二十九日佐世保發—神戸へ)
(三十日横須賀發—吳へ)

天霧、狹霧、朝若葉、初霜、子日、初春
大潮、荒潮、不知火、朝潮、早潮、親潮、五月風、雨風、浪風、磯風、夕風、朝風、山風、涼風、矢風、追風、浦風、春風、夕風、神風、沼風、野風、波風、滿潮、疾風、生風、松風、友鶴、千鳥、鴨、雁、雉、真鶴、初雁、彌生、友鶴、千鳥、鴨、雁、雉、真鶴、初雁

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第三千八百六十一號

昭和十六年八月二日(土)

海軍大臣官房

○ 令 達

官房第四一二二號

所屬長官ハ特設特務艇乗員ノ考課表及拔擢名簿ノ調製ニ關シ各當該規則ニ依リ難キトキハ部下高等武官ヲ調製官ニ指定シ拔擢名籍及考課表ヲ調製セシムルコトヲ得

昭和十六年八月一日

海軍大臣

官房機密第六九〇九號

當分ノ間高等科電信術練習生ニ採用スベキ海軍三等兵曹又ハ任用實役停年ヲ有スル海軍一等水兵ニ在リテハ海軍通信學校規則第二十條第二號ノ規定ニ拘ラズ年齢二十八年末滿ノ者ヨリ之ヲ選拔スルコトヲ得

昭和十六年八月二日

海軍大臣

○ 通 牒

兵備三機密第七〇六號

昭和十六年八月一日

海軍省兵備局

關係各應御中

國ノ事業等ニ於ケル電力消費ニ關シ打合範圍變更ノ件通知

昭和十五年軍務四第一三〇號別紙(昭和十五年五月二十二日海軍公報部内限)ニ整第五〇〇號第二項(ロ)號中五百「キロワット」ヲ百「キロワット」ニ變更ノ旨電氣廳長官ヨリ通知有之候

兵備三機密第六四七號ノ二

昭和十六年八月二日

海軍省兵備局長

關係艦隊參謀長殿

艦隊ノ行動秘匿措置ニ關スル件通知

海軍公報(部内限) 第三千八百六十一號

昭和十六年八月二日

二〇〇五

0413

首題ノ件ニ關シテハ七月八日附兵備三機密第六四七號ヲ以テ通知致置候處更ニ別紙ノ通中越有之候條了知ノ上可然取計相成度

(別紙)

貯業第一六五三號

昭和十六年七月二十三日

貯金局長

海軍省兵備局長殿

艦隊ノ行動秘匿措置ニ關スル件

右ニ關シ遞信省郵務局長ヨリ六月二十七日郵業第四二六號ヲ以テ御回答置ノ處爲替貯金ニ關シテハ別紙要綱ノ通措置スルコトニ致候條御了承相成度候

(別紙)

艦隊ノ行動秘匿ニ關スル措置要綱

爲替貯金關係

一、措置範圍

(一) 艦隊寄港地ノ郵便局ニ於テ乗組員ノ請求ニ依リ振出ス郵便爲替證書

(二) 艦隊寄港地ノ郵便局ニ於テ乗組員ヨリ受理スル

振替貯金拂込書

二、措置要旨

(一) 主務者記名調印ノ省略

通常爲替貯金ニ對シテハ主務者ノ記名調印ヲ省略ス

(二) 暗號局名ノ記入

電信爲替貯金ニ對シテハ固有ノ振出局名ニ代ヘ暗號局名(郵業第四二六號通)ヲ記載ス(振出局ハ暗號局名ヲ以テ傳送スルモノトス)

(三) 特殊通信日附印ノ使用

爲替證書(通常、小爲替)、爲替金受領證書(通常、電信、小爲替)及同原符竝ニ振替貯金拂込書及同受領證ニ對シテハ特殊ノ通信日附印(郵業第四二六號通)ヲ押捺ス

三、取扱郵便局等

遞信局ノ特ニ指定スル郵便局ニ於テ特別窓口ヲ開設シテ之ヲ取扱フ

四、事故等照會

郵業第四二六號通牒措置要綱六ノ例ニ依ル

五、取扱事前ノ連絡

艦隊ニ於テ本件取扱ヲ受ケントスルトキハ豫メ所轄

遞信局ニ其ノ旨内報スルモノトス

六、本件郵便局ニ於テ振出ヲ受付ケタル外國郵便爲替
中華人民國及聯合ノ約定並ニ香港及「フィリッピン」
群島トノ條約ニ依ル通常爲替ニ付テハ特ニ貯金局ニ
於テ爲替證書等ヲ發行スルニ付當該爲替ノ振出請求
書ハ貯金局ニ送付スルモノトス

經豫機密第三號ノ四〇

昭和十六年八月一日

海軍省經理局長

關係各支出官
關係各資金前渡官吏 殿

佛印ニ於テ要スル外貨ノ受領方法ニ關ス
ル件通牒

佛印ニ於テ部外ニ對スル支拂ノ爲要スル外貨（ピアス
トル貨）ハ海南海軍經理部長之ヲ總括處理致居候條所
要ノ際ハ海南海軍經理部支出官ノ在佛印資金前渡官吏
又ハ在佛印艦隊經費分任出納官吏ノ保有金ヨリ適宜交
換受領スル外要スレバ直接同支出官又ハ同部艦隊經費
分任出納官吏ニ請求シ横濱正金銀行河内出張所經由送
金受領ノコトニ了相成度

艦本機密第一號ノ七〇〇八

昭和十六年八月二日

海軍艦政本部長

横須賀、吳、佐世保、
舞鶴、大湊、鎮海、馬公 海軍軍需部長殿

輕防毒衣ノ件通牒

昭和十六年内令兵第二十三號ニ依リ名稱改正ノ首題兵
器ハ自今左記ノ通整理スベシ

記

一、輕防毒衣 一組

内譯

防毒衣袴 一個

防毒用靴履 一組

防毒用手袋 一組

輕防毒衣囊 一個

航本第六五三一號

昭和十六年八月一日

海軍航空本部長

關係各廳長殿

陸海軍航空材料規格（鋼線（鍍材、張線
ヲ含ム）之部）ノ件通牒

海軍公報（部内限）第三千八百六十一號

昭和十六年八月二日

一〇〇七

0415

首題規格別冊ノ通定ム

追テ本規格ハ左記要領ニ依リ之ヲ實施ス

別冊ハ所要ノ向ニ之ヲ配付ス

記

陸海軍航空材料規格〔鋼線(鋸材、張線ヲ含ム)之部〕實施要領

一、本規格ハ昭和十六年八月一日以降ノ新製品ニ之ヲ適用ス

二、本規格ニ相當スル舊規格ハ追テ廢止セララルル豫定ナリ

三、昭和十六年八月以降特ニ本規格ニ依リ難キモノアル場合ハ事情ヲ具シ航空本部長ノ承認ヲ得ルモノトス

四、規格外材料ノ使用ニ關シテハ昭和十一年航本機密第三五號通牒ノ通理由ヲ具シ航空本部長ノ承認ヲ得ルコト從來通トス

航本第六五三二號

陸海軍航空材料規格(鋼材之部、鋼板及鋼管之部、「アルミニウム」及其ノ合金之部及「マグネシウム」及其ノ合金之部)中別紙ノ通改正ス

別紙ハ所要ノ向ニ之ヲ配付ス

昭和十六年八月一日

海軍航空本部長

○辭令

千五百圓 大阪市技師 橋 善雄

千五百圓 森垣 誠

千四百四拾圓 伊藤 貞亮

千四百四拾圓 廣島市技師 橋本 克太

千參百八拾圓 成田 直三郎

千參百八拾圓 大阪市技師 行松 光雄

千參百八拾圓 澤山 宗之輔

千參百貳拾圓 大阪市技師 田中 茂春

千參百貳拾圓 同 橋 好茂

千貳百六拾圓 神戸市技師 小林 健三郎

千貳百六拾圓 宮地 米三

千貳百圓 平田 正樹

千貳百圓 益田 重華

微用中年額各頭書ノ通ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(海軍省)

0416

各) 參千四百圓 鐵道技師 佐久間七郎左衛門
 (通) 千八百貳拾圓 同 正 吉 幸 真
 徵用中自今年額各頭書ノ通ヲ給ス(二十六日同)

海軍教授 中 村 守

昭和十六年七月及八月施行ノ海軍兵學校海軍機關學校及海軍經理學校生徒採用試驗臨時委員ヲ免ス
 (二十九日同)

海軍技術會議議員海軍中佐 山内 英一
 海軍艦政本部技術會議議員ヲ命ス

同 南 六右衛門

海軍艦政本部技術會議議員ヲ命ス
 海軍航空本部技術會議議員ヲ命ス(以上三十日海軍省)

海軍艦政本部造兵監督官海軍造兵大尉 井本 正作

名古屋監理官ヲ命ス
 名古屋監査官ヲ命ス(八日同)

軍令部部員海軍中佐 立花 正
 第三部勤務ヲ命ス

同 山内 英一

第一部第二課兼第二部第三課勤務ヲ命ス(以上三十日軍令部)

海軍中佐 立花 正
 參謀部第三部兼報道部第一課同第二課勤務ヲ命ス

同 山内 英一

參謀部第一部第二課兼同第二部第三課勤務ヲ命ス
 (以上三十日大本營海軍部)

水路部附屬第六根 據地隊附海軍技手 村山 倉治
 主トシテ兼務應ニ於テ服務スヘシ(二十五日水路部長)

○ 雜 款

○司令驅逐艦一時變更
 第五驅逐隊司令ハ七月十三日司令驅逐艦ヲ一時旗風ヨリ朝風ニ變更、同十五日春風ニ變更セリ

○事務所撤去
 第十八號驅潛艇艇裝員事務所ヲ七月十五日撤去セリ

大立艇裝員事務所ヲ七月三十一日撤去セリ

○特務艦野島行動豫定

地名	着	發
佐世保		八月十日
鎮海	八月十一日	十二日
西戶崎	十二日	十五日

吳	十六日	十七日
横須賀	十九日	二十二日
神戶	二十四日	二十五日
吳	二十六日	二十七日
長崎	二十八日	三十日
佐世保	三十日	

○正誤
 去月三十日通牒欄中「海人第一號ノ一八九」ハ「海人機密第一號ノ一八九」ノ、昨日通牒欄海人第一號ノ「一八中」其ノ他ノハ「其ノ他」ノ、「附屬艦船」ハ「附屬船艇」ノ孰モ誤

○艦船所在

指定ヲ要セズ

○八月二日午前十時

【横須賀】

春日▲、劍崎▲、山城▲、陸奥▲、駒橋▲

▷多摩

伊一六、伊一七、伊四、伊五

室戸

(翔鶴)▲、(津輕)▲、(伊二三)▲、(伊三三)▲

(伊三七)▲

【長浦】

呂六一▲、呂六二▲

哨一▲、哨二▲

【石川島】

(驅潜一七)▲

(驅潜一八)▲

能登呂

【川崎】

(筑紫)▲

(秋雲)▲

【浦賀】

浪風

伊五二

【館山灣】

伊五二

哨三五

【大湊】

哨三五

【吳】

淺間▲、八雲▲、鬼怒、阿武隈、神通

夏潮、峯雲、夕立、口初雪、白雪、吹雪、

朝雲、山雲、夏雲、天津風、初風、口霞、陽炎、

呂五七▲、呂五八▲、呂五九▲、口伊五三▲、

伊五四▲、伊五五▲、伊五八▲、口伊一二二▲

伊七四、伊七五、伊七〇、伊六八、

伊一二一▲、口伊七三、伊七一、伊七二

驅潜特五一▲、驅潜特五二▲、驅潜特五三▲

哨四六▲

櫻野、隱戸、鳴戸、間宮

(日進)▲、(伊二七)▲、(伊三五)▲、

(伊七六)▲

【大阪】

國後

(驅潜二一)▲

(瑞鶴)▲、(伊良湖)▲、(伊一〇)▲、(伊二五)▲

(伊三一)▲、(伊四一)▲、(伊一一)▲

【相生】

(驅潜一九)▲

【玉】

伊六〇▲

(驅潜二〇)▲

【德山】

朝日

瑞鳳、鳳翔

夕風、三日月、黒潮

伊二一

哨三一、哨三一、哨三三

鶴見

千代田

【伊豫灘】

吾妻▲、大井▲、木曾、龍田

薄雲▲

鳩、鷲

呂三四▲

哨三六▲、哨三七▲

(夕雲)▲

海軍公報(部内限)第三千八百六十一號

昭和十六年八月二日

一〇一一

0419

【佐世保】

加賀、香椎、出雲
 白露、有明、夕暮、時雨
 呂三〇、呂三一、呂三二、呂三三

伊二九、伊三九

【古江】

伊二四、伊二九、伊三九

【作業地】

宇治、安宅、二見、伏見、比良、熱海
 鳥羽、勢多、堅田、保津、隅田、名取
 八丈、占守、嵯峨、橋立、磐手、霧島
 長門、日向、伊勢、扶桑、比叡、霧島
 長門、日向、伊勢、扶桑、比叡、霧島
 長門、日向、伊勢、扶桑、比叡、霧島
 長門、日向、伊勢、扶桑、比叡、霧島
 長門、日向、伊勢、扶桑、比叡、霧島
 長門、日向、伊勢、扶桑、比叡、霧島
 長門、日向、伊勢、扶桑、比叡、霧島

【航海中】

石廊 七月十四日 羅府發 | 橫須賀 (~)
 早丸 七月十九日 橫須賀發 | 吳 (~)
 野島 七月三十一日 佐世保發 | 別府灣 (~)
 那智 七月三十一日 佐世保發 | 作業地 (~)
 石垣 八月一日 佐世保發 | 大湊 (~)

春雨、海風、江風、山風、涼風、谷風、
 浦風、磯風、夕風、朝風、陸月、望月、
 疾風、神風、沼風、野風、波風、滿潮、
 松風、春風、千鳥、雁、雉、真鶴、
 初雁、友鶴、千鳥
 呂六三、呂六四、呂六八、呂六五、
 呂六六、呂六七、呂七四、呂八一、
 伊二〇、伊二七、伊二八、伊二九、
 伊三五、伊三六、伊三九、伊四〇、
 伊四五、伊四六、伊四九、伊五〇、
 伊六一、伊六二、伊六四、伊六五、
 伊七一、伊七二、伊七四、伊七五、
 伊八六、伊八七、伊八八、伊八九、
 伊九〇、伊九一、伊九二、伊九三、
 伊九四、伊九五、伊九六、伊九七、
 伊九八、伊九九、伊一〇〇、伊一〇一、
 伊一〇二、伊一〇三、伊一〇四、伊一〇五、
 伊一〇六、伊一〇七、伊一〇八、伊一〇九、
 伊一一〇、伊一一一、伊一一二、伊一一三、
 伊一一四、伊一一五、伊一一六、伊一一七、
 伊一一八、伊一一九、伊一二〇、伊一二一、
 伊一二二、伊一二三、伊一二四、伊一二五、
 伊一二六、伊一二七、伊一二八、伊一二九、
 伊一三〇、伊一三一、伊一三二、伊一三三、
 伊一三四、伊一三五、伊一三六、伊一三七、
 伊一三八、伊一三九、伊一四〇、伊一四一、
 伊一四二、伊一四三、伊一四四、伊一四五、
 伊一四六、伊一四七、伊一四八、伊一四九、
 伊一五〇、伊一五一、伊一五二、伊一五三、
 伊一五四、伊一五五、伊一五六、伊一五七、
 伊一五八、伊一五九、伊一六〇、伊一六一、
 伊一六二、伊一六三、伊一六四、伊一六五、
 伊一六六、伊一六七、伊一六八、伊一六九、
 伊一七〇、伊一七一、伊一七二、伊一七三、
 伊一七四、伊一七五、伊一七六、伊一七七、
 伊一七八、伊一七九、伊一八〇、伊一八一、
 伊一八二、伊一八三、伊一八四、伊一八五、
 伊一八六、伊一八七、伊一八八、伊一八九、
 伊一九〇、伊一九一、伊一九二、伊一九三、
 伊一九四、伊一九五、伊一九六、伊一九七、
 伊一九八、伊一九九、伊二〇〇、伊二〇一、
 伊二〇二、伊二〇三、伊二〇四、伊二〇五、
 伊二〇六、伊二〇七、伊二〇八、伊二〇九、
 伊二一〇、伊二一一、伊二一二、伊二一三、
 伊二一四、伊二一五、伊二一六、伊二一七、
 伊二一八、伊二一九、伊二二〇、伊二二一、
 伊二二二、伊二二三、伊二二四、伊二二五、
 伊二二六、伊二二七、伊二二八、伊二二九、
 伊二三〇、伊二三一、伊二三二、伊二三三、
 伊二三四、伊二三五、伊二三六、伊二三七、
 伊二三八、伊二三九、伊二四〇、伊二四一、
 伊二四二、伊二四三、伊二四四、伊二四五、
 伊二四六、伊二四七、伊二四八、伊二四九、
 伊二五〇、伊二五一、伊二五二、伊二五三、
 伊二五四、伊二五五、伊二五六、伊二五七、
 伊二五八、伊二五九、伊二六〇、伊二六一、
 伊二六二、伊二六三、伊二六四、伊二六五、
 伊二六六、伊二六七、伊二六八、伊二六九、
 伊二七〇、伊二七一、伊二七二、伊二七三、
 伊二七四、伊二七五、伊二七六、伊二七七、
 伊二七八、伊二七九、伊二八〇、伊二八一、
 伊二八二、伊二八三、伊二八四、伊二八五、
 伊二八六、伊二八七、伊二八八、伊二八九、
 伊二九〇、伊二九一、伊二九二、伊二九三、
 伊二九四、伊二九五、伊二九六、伊二九七、
 伊二九八、伊二九九、伊三〇〇、伊三〇一、
 伊三〇二、伊三〇三、伊三〇四、伊三〇五、
 伊三〇六、伊三〇七、伊三〇八、伊三〇九、
 伊三一〇、伊三一三、伊三一四、伊三一五、
 伊三一六、伊三一七、伊三一八、伊三一九、
 伊三二〇、伊三二一、伊三二二、伊三二三、
 伊三二四、伊三二五、伊三二六、伊三二七、
 伊三二八、伊三二九、伊三三〇、伊三三一、
 伊三三二、伊三三三、伊三三四、伊三三五、
 伊三三六、伊三三七、伊三三八、伊三三九、
 伊三四〇、伊三四一、伊三四二、伊三四三、
 伊三四四、伊三四五、伊三四六、伊三四七、
 伊三四八、伊三四九、伊三五〇、伊三五一、
 伊三五二、伊三五三、伊三五四、伊三五五、
 伊三五六、伊三五七、伊三五八、伊三五九、
 伊三六〇、伊三六一、伊三六二、伊三六三、
 伊三六四、伊三六五、伊三六六、伊三六七、
 伊三六八、伊三六九、伊三七〇、伊三七一、
 伊三七二、伊三七三、伊三七四、伊三七五、
 伊三七六、伊三七七、伊三七八、伊三七九、
 伊三八〇、伊三八一、伊三八二、伊三八三、
 伊三八四、伊三八五、伊三八六、伊三八七、
 伊三八八、伊三八九、伊三九〇、伊三九一、
 伊三九二、伊三九三、伊三九四、伊三九五、
 伊三九六、伊三九七、伊三九八、伊三九九、
 伊四〇〇、伊四〇一、伊四〇二、伊四〇三、
 伊四〇四、伊四〇五、伊四〇六、伊四〇七、
 伊四〇八、伊四〇九、伊四一〇、伊四一一、
 伊四一二、伊四一三、伊四一四、伊四一五、
 伊四一六、伊四一七、伊四一八、伊四一九、
 伊四二〇、伊四二一、伊四二二、伊四二三、
 伊四二四、伊四二五、伊四二六、伊四二七、
 伊四二八、伊四二九、伊四三〇、伊四三一、
 伊四三二、伊四三三、伊四三四、伊四三五、
 伊四三六、伊四三七、伊四三八、伊四三九、
 伊四四〇、伊四四一、伊四四二、伊四四三、
 伊四四四、伊四四五、伊四四六、伊四四七、
 伊四四八、伊四四九、伊四五〇、伊四五一、
 伊四五二、伊四五三、伊四五四、伊四五五、
 伊四五六、伊四五七、伊四五八、伊四五九、
 伊四六〇、伊四六一、伊四六二、伊四六三、
 伊四六四、伊四六五、伊四六六、伊四六七、
 伊四六八、伊四六九、伊四七〇、伊四七一、
 伊四七二、伊四七三、伊四七四、伊四七五、
 伊四七六、伊四七七、伊四七八、伊四七九、
 伊四八〇、伊四八一、伊四八二、伊四八三、
 伊四八四、伊四八五、伊四八六、伊四八七、
 伊四八八、伊四八九、伊四九〇、伊四九一、
 伊四九二、伊四九三、伊四九四、伊四九五、
 伊四九六、伊四九七、伊四九八、伊四九九、
 伊五〇〇、伊五〇一、伊五〇二、伊五〇三、
 伊五〇四、伊五〇五、伊五〇六、伊五〇七、
 伊五〇八、伊五〇九、伊五一〇、伊五一一、
 伊五一二、伊五一三、伊五一四、伊五一五、
 伊五一六、伊五一七、伊五一八、伊五一九、
 伊五二〇、伊五二一、伊五二二、伊五二三、
 伊五二四、伊五二五、伊五二六、伊五二七、
 伊五二八、伊五二九、伊五三〇、伊五三一、
 伊五三一、伊五三二、伊五三三、伊五三四、
 伊五三五、伊五三六、伊五三七、伊五三八、
 伊五三九、伊五四〇、伊五四一、伊五四二、
 伊五四三、伊五四四、伊五四五、伊五四六、
 伊五四七、伊五四八、伊五四九、伊五五〇、
 伊五五一、伊五五二、伊五五三、伊五五四、
 伊五五五、伊五五六、伊五五七、伊五五八、
 伊五五九、伊五六〇、伊五六一、伊五六二、
 伊五六三、伊五六四、伊五六五、伊五六六、
 伊五六七、伊五六八、伊五六九、伊五七〇、
 伊五七一、伊五七二、伊五七三、伊五七四、
 伊五七五、伊五七六、伊五七七、伊五七八、
 伊五七九、伊五八〇、伊五八一、伊五八二、
 伊五八三、伊五八四、伊五八五、伊五八六、
 伊五八七、伊五八八、伊五八九、伊五九〇、
 伊五九一、伊五九二、伊五九三、伊五九四、
 伊五九五、伊五九六、伊五九七、伊五九八、
 伊五九九、伊六〇〇、伊六〇一、伊六〇二、
 伊六〇三、伊六〇四、伊六〇五、伊六〇六、
 伊六〇七、伊六〇八、伊六〇九、伊六一〇、
 伊六一一、伊六一二、伊六一三、伊六一四、
 伊六一五、伊六一六、伊六一七、伊六一八、
 伊六一九、伊六二〇、伊六二一、伊六二二、
 伊六二三、伊六二四、伊六二五、伊六二六、
 伊六二七、伊六二八、伊六二九、伊六三〇、
 伊六三一、伊六三二、伊六三三、伊六三四、
 伊六三五、伊六三六、伊六三七、伊六三八、
 伊六三九、伊六四〇、伊六四一、伊六四二、
 伊六四三、伊六四四、伊六四五、伊六四六、
 伊六四七、伊六四八、伊六四九、伊六五〇、
 伊六五一、伊六五二、伊六五三、伊六五四、
 伊六五五、伊六五六、伊六五七、伊六五八、
 伊六五九、伊六六〇、伊六六一、伊六六二、
 伊六六三、伊六六四、伊六六五、伊六六六、
 伊六六七、伊六六八、伊六六九、伊六七〇、
 伊六七一、伊六七二、伊六七三、伊六七四、
 伊六七五、伊六七六、伊六七七、伊六七八、
 伊六七九、伊六八〇、伊六八一、伊六八二、
 伊六八三、伊六八四、伊六八五、伊六八六、
 伊六八七、伊六八八、伊六八九、伊六九〇、
 伊六九一、伊六九二、伊六九三、伊六九四、
 伊六九五、伊六九六、伊六九七、伊六九八、
 伊六九九、伊七〇〇、伊七〇一、伊七〇二、
 伊七〇三、伊七〇四、伊七〇五、伊七〇六、
 伊七〇七、伊七〇八、伊七〇九、伊七一〇、
 伊七一一、伊七一二、伊七一三、伊七一四、
 伊七一五、伊七一六、伊七一七、伊七一八、
 伊七一九、伊七二〇、伊七二一、伊七二二、
 伊七二三、伊七二四、伊七二五、伊七二六、
 伊七二七、伊七二八、伊七二九、伊七三〇、
 伊七三一、伊七三二、伊七三三、伊七三四、
 伊七三五、伊七三六、伊七三七、伊七三八、
 伊七三九、伊七四〇、伊七四一、伊七四二、
 伊七四三、伊七四四、伊七四五、伊七四六、
 伊七四七、伊七四八、伊七四九、伊七五〇、
 伊七五一、伊七五二、伊七五三、伊七五四、
 伊七五五、伊七五六、伊七五七、伊七五八、
 伊七五九、伊七六〇、伊七六一、伊七六二、
 伊七六三、伊七六四、伊七六五、伊七六六、
 伊七六七、伊七六八、伊七六九、伊七七〇、
 伊七七一、伊七七二、伊七七三、伊七七四、
 伊七七五、伊七七六、伊七七七、伊七七八、
 伊七七九、伊七八〇、伊七八一、伊七八二、
 伊七八三、伊七八四、伊七八五、伊七八六、
 伊七八七、伊七八八、伊七八九、伊七九〇、
 伊七九一、伊七九二、伊七九三、伊七九四、
 伊七九五、伊七九六、伊七九七、伊七九八、
 伊七九九、伊八〇〇、伊八〇一、伊八〇二、
 伊八〇三、伊八〇四、伊八〇五、伊八〇六、
 伊八〇七、伊八〇八、伊八〇九、伊八一〇、
 伊八一一、伊八一二、伊八一三、伊八一四、
 伊八一五、伊八一六、伊八一七、伊八一八、
 伊八一九、伊八二〇、伊八二一、伊八二二、
 伊八二三、伊八二四、伊八二五、伊八二六、
 伊八二七、伊八二八、伊八二九、伊八三〇、
 伊八三一、伊八三二、伊八三三、伊八三四、
 伊八三五、伊八三六、伊八三七、伊八三八、
 伊八三九、伊八四〇、伊八四一、伊八四二、
 伊八四三、伊八四四、伊八四五、伊八四六、
 伊八四七、伊八四八、伊八四九、伊八五〇、
 伊八五一、伊八五二、伊八五三、伊八五四、
 伊八五五、伊八五六、伊八五七、伊八五八、
 伊八五九、伊八六〇、伊八六一、伊八六二、
 伊八六三、伊八六四、伊八六五、伊八六六、
 伊八六七、伊八六八、伊八六九、伊八七〇、
 伊八七一、伊八七二、伊八七三、伊八七四、
 伊八七五、伊八七六、伊八七七、伊八七八、
 伊八七九、伊八八〇、伊八八一、伊八八二、
 伊八八三、伊八八四、伊八八五、伊八八六、
 伊八八七、伊八八八、伊八八九、伊八九〇、
 伊八九一、伊八九二、伊八九三、伊八九四、
 伊八九五、伊八九六、伊八九七、伊八九八、
 伊八九九、伊九〇〇、伊九〇一、伊九〇二、
 伊九〇三、伊九〇四、伊九〇五、伊九〇六、
 伊九〇七、伊九〇八、伊九〇九、伊九一〇、
 伊九一一、伊九一二、伊九一三、伊九一四、
 伊九一五、伊九一六、伊九一七、伊九一八、
 伊九一九、伊九二〇、伊九二一、伊九二二、
 伊九二三、伊九二四、伊九二五、伊九二六、
 伊九二七、伊九二八、伊九二九、伊九三〇、
 伊九三一、伊九三二、伊九三三、伊九三四、
 伊九三五、伊九三六、伊九三七、伊九三八、
 伊九三九、伊九四〇、伊九四一、伊九四二、
 伊九四三、伊九四四、伊九四五、伊九四六、
 伊九四七、伊九四八、伊九四九、伊九五〇、
 伊九五二、伊九五三、伊九五四、伊九五五、
 伊九五六、伊九五七、伊九五八、伊九五九、
 伊九六〇、伊九六一、伊九六二、伊九六三、
 伊九六四、伊九六五、伊九六六、伊九六七、
 伊九六八、伊九六九、伊九七〇、伊九七一、
 伊九七二、伊九七三、伊九七四、伊九七五、
 伊九七六、伊九七七、伊九七八、伊九七九、
 伊九八〇、伊九八一、伊九八二、伊九八三、
 伊九八四、伊九八五、伊九八六、伊九八七、
 伊九八八、伊九八九、伊九九〇、伊九九一、
 伊九九二、伊九九三、伊九九四、伊九九五、
 伊九九六、伊九九七、伊九九八、伊九九九、
 伊一〇〇〇

海軍公報

(部内限) 第三千八百六十二號

海軍大臣官房

昭和十六年八月四日(月)

○令 達

官房機密第六六二九號ノ二
臨時軍事費整理規程中左ノ通改正ス

昭和十六年七月三十一日

海 軍 大 臣

第一條第二號中「第十一航空艦隊」ノ下ニ、「南遣艦隊」ヲ加フ
第二條第一號(二)、第三號(二)、第四號(三)、第六號(二)、第八號(三)及第一號(一)中「第十一航空艦隊司令部」ノ下ニ、「南遣艦隊司令部」ヲ、「第十一航空艦隊」ノ下ニ「南遣艦隊」ヲ加フ

官房機密第六九六三號

昭和十五年官房機密第八一七一號中左ノ通改正ス

昭和十六年八月四日

海 軍 大 臣

特設海軍建築部ノ項通常物品會計官吏ノ欄中「主計科

士官タル部員」ヲ「高等官タル職員」ニ改ム

(參照) 昭和十五年官房機密第八一七一號ハ特設機關ニ於ケル通常物品出納命令官及通常物品會計官吏ノ區分ノ件ナリ

官房第四一六七號

當分ノ間五月一日入團ノ海軍兵(飛行兵)ノ三等兵ヨリ二等兵ヘノ進級期ハ海軍兵進級規則第十一條本文ノ規定ニ拘ラズ入團ノ翌年十一月一日ニ一定ス

昭和十六年八月四日

海 軍 大 臣

○通 牒

兵備二機密第七一六號

昭和十六年八月二日

海 軍 省 兵 備 局 長

關係各廳長殿

部内諸施設用新規又ハ増加受電電力ニ關スル件申進

海軍公報(部内限) 第三千八百六十二號 昭和十六年八月四日

一〇一三

0421

昭和十六年度所要首題電力ニシテ昭和十五年軍務四第一三〇號國ノ事業等ニ於ケル電力消費ニ關スル軍務局長申進(昭和十五年五月二十一日及二十二日海軍公報部内限)ニ依ル處理未濟ノ分ニ付テハ電力確保上遺憾ナキヲ期スル爲至急手續相成様致度
追テ遞信大臣ト打合ノ分(一千「キロワット」以上)ハ海軍省兵備局ニ通知相成度

契九第一號ノ五七

昭和十六年八月四日

海軍省 經理局長

各經理部長
各艦隊主計長 殿

昭和十六年度下半年酒類割當ニ關スル件
通牒

昭和十六年度下半年(自十六年九月至十七年三月)酒類(酒保物品ニ限ル)左記ノ通割當致候條各海仁會支部ト連絡ノ上補給相成度

記

- 一、割當數量 別表ノ通(各經理部長、各艦隊主計長宛直送ス)
- 二、配給手續 (一) 各鎮守府、各艦隊毎ニ前項割當數量ノ範圍内ニ

- 於テ麾下各所轄(關係要港部所屬ノモノヲ含ム)ニ對スル供給額ヲ定メ酒類供給明細簿(別紙様式關係各部ニ直送ス)ニ記入ノ上各所轄主計長ニ通知シ且當該期間ノ補給計畫ヲ樹テ經理局第五課及關係各海仁會支部ニ通知ス
- (二) 各海仁會支部ハ前號補給計畫ニ基キ仕入計畫及ビ前進補給基地ニ送付ヲ要スルモノニ付キ輸送計畫ヲ樹テ經理局第五課ニ通知ス
- (三) 經理局第五課ハ前號仕入計畫ニ基キ各納入者ヲシテ現品ヲ出荷各海仁會支部ニ納入セシメ又必要アルトキハ之ヲ前進補給基地ニ輸送セシム
- (四) 各所轄酒保ニ於テ酒類ヲ受込マントスルトキハ請求書ニ供給明細簿若クハ所轄長ノ證明アル寫ヲ添付シ割當數量以内ノ供給ヲ受クルモノトス
- (五) 各海仁會支部、前進補給基地若クハ給糧艦ニ於テ酒類ヲ供給シタルトキハソノ都度供給額ヲ供給明細簿若クハ其ノ寫ニ記入スルモノトス
- (六) 各海仁會支部ハ毎月供給セル酒類ノ所轄別數量ヲ經理局第五課長ニ報告スルモノトス、前進補給基地若クハ給糧艦ノ供給セル酒類所轄別數量ハ關係海仁會支部ニ於テ取纏メ經理局第五課

長ニ報告スルモノトス

(七) 艦船部隊相互間ニ於テ酒類ヲ受授シタルトキハ本項(四)(五)ニ準ジ處理シ讓渡數量ハ供給明細票ニ朱書スルモノトス

讓渡シタル酒類ノ補充ハ供給明細簿ニ讓受證(讓受タル艦船部隊ノ製作セルモノ)ヲ添付シ請求スルモノトス

三、其ノ他

(一) 各海仁會支部前進補給基地ハ艦船部隊行動豫定變更等ノタメ補給計畫以外ニ臨時請求アリタルトキト雖モ極力之ニ即應シ補充ニ關シ關係各部及經理局第五課ト速ニ連絡スルモノトス

(二) 役務變更等特別ノ事由ニ依リ別表割當數量ノ増(減)配ヲ要スルトキハ事情ヲ具シ經理局第五課長ニ協議ノコト

(三) 海仁會水交社等ノ食堂ノ業務用酒類ニ就キ不足ヲ生ズル虞アルトキハ別ニ計畫ヲ樹テ算定ノ基礎ヲ明示シテ經理局第五課長ニ協議ノコト

(四) 配給用トシテ從來民需ヨリ取得セルモノハ本割當以外トシ數量確保ニ努ムルコト

(五) 軍港要港以外ノ地ニ一時ニ多數艦船入港シ若ク

ハ航空部隊移動シ上陸外出休養ノ爲酒類ノ準備ヲ要スルトキハ豫メ入港地所要時期、所要數量ヲ經理局第五課長ニ通知ノコト
(六) 清酒麥酒以外ノ酒精飲料ヲ必要トスル場合ハ經理局第五課ニ照會ノコト

横經ル第一號ノ三三

昭和十六年七月二十五日

横須賀海軍經理部長

關係支出官、資金前渡官吏殿

給與通牒等ニ關スル件通知

本年四月一日ヨリ人體諸給與支拂促進上左記各應ニ資金前渡官吏ヲ設置セシニ付給與通牒等發送上特ニ御留意アリ度

記

一、資金前渡官吏設置ノ應及區分

資金前渡官吏別	擔任支拂應(區分)
横須賀海軍經理部資金前渡官吏	鎮守府(鎮守府附、待命、休職者共)、通信部、文庫、横人事、艦船部、經理部、通信隊、軍法會議、工務所、鎮守府部下特設望樓、工廠ニ於テ艦裝中ノ艦船ノ艦裝員及同附、横病院

海軍公報(部内限)第三千八百六十二號

昭和十六年八月四日

一〇一五

0423

横須賀海軍工廠 (除長浦方面) 資	横工廠 (長浦方面ノ次行) (記載各部ヲ除ク)
横須賀海軍工廠 (長浦方面) 資	横工廠(造兵部、機雷實驗部、 電池實驗部、航海實驗部、通信 實驗部、光學實驗部)
海軍航空技術廠 資	空技廠(支廠ヲ除ク)
海軍航空技術廠 資	空技廠
横須賀海軍軍需 部	軍需部
横須賀海軍港務 部	港務部
横須賀海軍建築 部	建築部

二、給與通牒發送先

- (イ) 右資金前渡官吏宛ノ給與通牒ハ經理部へ送付ス
ルコトナク同官吏宛直送ノコト
- (ロ) 工員給ハ從前通支出官拂ニシテ給與通牒宛名ハ
經理部長ナルモ發送ハ本人所屬廳へ直送ノコト
- (ハ) 横病院へ轉勤者ニ對スル給與通牒ハ「横須賀海
軍經理部資金前渡官吏」宛トシ「同病院主計科」
ニ直送ノコト
- (ニ) 横鎮附トナリ給與通牒發送前派遣勤務者ハ承命

服務ヲ命ゼラレタル者ノ給與通牒ハ何レモ其ノ派
遣勤務廳、承命服務廳ニ直送ノコト

○ 辭令

海軍機關大尉 岡田 成正
昭和十六年八月施行ノ海軍兵學校海軍機關學校及海
軍經理學校生徒採用試驗臨時委員ヲ命ス

海軍少佐 淺井 秋生
昭和十六年七月及八月施行ノ海軍兵學校海軍機關學
校及海軍經理學校生徒採用試驗臨時委員ヲ免ス(以
上ハ海軍省)

第二課勤務ヲ命ス 海軍主計少佐 池田 晴男

第三課勤務ヲ命ス 同 兒玉 茂

第二課勤務ヲ命ス 海軍主計大尉 前田 孝充郎

(各通) 同 篠原 英夫

第一課勤務ヲ命ス 同 石井 次男

第二課勤務ヲ命ス(以上ハ海軍省經理局) 同 升田 正雄

<p>技術部第三課勤務ヲ命ス 海軍中佐 安井 保門</p> <p>在名古屋監督長ノ命ヲ承ケ服務スヘシ 海軍書記 近藤 新十郎</p> <p>技術部第一課勤務ヲ命ス 同 古川 清</p> <p>技術部第三課附ヲ命ス 海軍技手 田中 賢吉</p> <p>技術部第二課附ヲ命ス(以上ハ同海軍航空本部) 同 吉岡 通</p>	<p>○雜款</p> <p>○旗艦變更 第二水雷戰隊司令官ハ七月三十日旗艦ヲ神通ヨリ朝潮ニ變更セリ</p> <p>第一航空艦隊司令長官ハ八月一日旗艦ヲ赤城ニ變更セリ</p> <p>○郵便物發送先 自今當隊宛郵便物ハ左記ニ依リ發送相成度</p> <p>普通郵便 佐世保郵便局氣付(軍事郵便)</p>
<p>航空郵便 第四海軍軍用郵便所氣付(軍事航空郵便) (福州在勤海軍武官府)</p> <p>當隊宛郵便物ハ自今左記ニ依リ發送相成度</p> <p>司令、隊宛 記 機關長宛 春風 主計長宛 松風 軍醫長宛 朝風 尙各艦ニ關係アルモノハ寫ヲ直接各艦宛送付相成度 (第五驅逐隊) 旗風</p>	<p>○學生入校期日 近ク任命豫定ノ本校選修學生ハ九月二十二日始業式ニ付其ノ前日迄ニ入校セシメラレ度 (海軍軍醫學校)</p>

海軍公報(部内限) 第三千八百六十二號 昭和十六年八月四日

○艦船所在

▲印ハ「ハホ」指定ヲ要セズ

○八月四日午前十時
 【横須賀】春日▲、劍崎▲、山城▲、陸奥▲、口多摩、能登呂、澤風▲

伊一六、伊一七、伊四、伊五

室戸
 (翔鶴)▲(津輕)▲(伊二三)▲(伊三三)▲(伊三七)▲

【長浦】呂六▲、萩風▲

呂六一▲、呂六二▲

【石川島】(秋雲)▲

石垣

【浦賀】(筑紫)▲

濱風

【館山灣】伊五二

伊五二

伊五二

【吳】淺間▲、八雲▲、鬼怒、阿武隈、神通

夏潮、峯雲、夕立、口初雪、白雪、吹雪、朝雲、山雲、夏雲、天津風、初風、蔽、陽炎

呂五七▲、呂五八▲、呂五九▲、口伊五三▲

伊五四▲、伊五五▲、伊五八▲、口伊一二二▲

伊七四、伊七五、伊七〇、伊六八、伊七二

伊一二一▲、口伊七三、伊七一、伊七二

驅潛特五一▲、驅潛特五二▲、驅潛特五三▲

哨四六▲

樫野、隱戸、野島

(日進)▲(伊二七)▲(伊三五)▲(伊七六)▲

【大阪】國後

(驅潛二一)▲

【神戸】(瑞鶴)▲(伊良湖)▲(伊一〇)▲(伊二五)▲

(伊三)▲(伊四一)▲(伊一一)▲

【相生】(驅潛一九)▲

伊六〇▲

【相玉】(驅潛二〇)▲

瑞鳳、風翔

【德山】朝日

夕風、三日月、黒潮

【別府灣】那智

伊二一、哨三二、哨三三

【佐伯】瑞鳳、風翔

千代田

【伊豫灘】吾妻▲、大井▲、木曾、龍田

薄雲▲

鳩、鷺

呂三四▲

哨三六▲、哨三七▲

【佐世保】(夕雲)▲

加賀、口香椎、出雲

白露、有明、夕暮、時雨

海軍公報(部内限)第三千八百六十二號

昭和十六年八月四日

一〇一九

0426

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 號外

○ 令 達

官房第五四五號ノ一〇
雜役船ノ所屬ヲ左ノ通變更ス
昭和十六年八月一日

海 軍 大 臣 官 房

昭和十六年八月四日(月)

海 軍 大 臣 官 房

公稱番號	船 種	舊 所 屬	新 所 屬	定 數 別	記 事
第二二七〇號	曳 (百五十艘)	佐世保海軍建築部			
第二二七一號	同 (百艘)	同			
第一一五九號	交通船兼曳船 (六十艘)	佐世保海軍建築部 (馬公出雲所川)			
第二二七九號	内 火 艇 (十二米)	佐世保海軍建築部			
第二二八〇號	同	同			
第二二八一號	同 (同)	同			
第二二八二號	同 (九米)	佐世保海軍建築部 (馬公出雲所川)			

海軍公報 (部内限) 號外

0428

海軍公報 (部内限) 號外

第三九四〇號	傳	馬	佐世保海軍建築部
第三九四一號	同	(十米)	
第三九四二號	同	(同)	
第三九四三號	同	(同)	
第三九四四號	同	(同)	
第三九四五號	同	(八米)	
第三九四六號	同	(同)	
第三九四七號	同	(同)	
第三九四八號	同	(同)	
第三九四九號	同	(同)	
第三九五〇號	同	(同)	
第三九五一號	同	(同)	
第三九五二號	同	(同)	
第三九五三號	同	(同)	
第三九五四號	同	(同)	

0429

海軍公報 (部内限) 號外

第三九六九號	同	(同)	同
第三九六八號	同	(同)	同
第三九六七號	同	(同)	同
第三九六六號	同	(同)	同
第三九六五號	同	(同)	同
第三九六四號	同	(同)	同
第三九六三號	同	(同)	同
第三九六二號	同	(同)	同
第三九六一號	同	(同)	同
第三九六〇號	同	(六、米)	同
第三九五九號	同	(同)	同
第三九五八號	同	(同)	同
第三九五七號	同	(同)	同
第三九五六號	同	(同)	同
第三九五五號	同	(同)	同

0430

海軍公報 (部内限) 號外

第三六六〇號	傳馬船 (六米)	佐世保海軍建築部 (馬公出張所用)
第三六六一號	同	同
第三六六二號	同	同
第三六六三號	同	同
第三六六四號	同	同
第三六七四號	運貨船 (タルマ型百噸級)	同
第三六七五號	同	同
第三六七六號	同	同
第三六七七號	同	同
第三九三九號	起重機船 (舉揚力六十噸)	佐世保海軍建築部
第三九三八號	同 (舉揚力三十噸)	同
第三九四四號	浚渫船 (ポンプ式)	同
第三九五五號	同	同
第三九九六號	同	同
第三七四五號	同 (プリストンマン式)	佐世保海軍建築部 (高雄工事用)

馬公海軍建築部

臨時附屬

高雄工事用

四

0431

海軍公報 (部内限) 號外

第三八二二號	泥	受 三十坪級船	佐世保海軍建築部 (高野工務所)
第三八四二號	同	(同)	佐世保海軍建築部
第四〇四六號	同	(同)	佐世保海軍建築部
第四〇四七號	同	(同)	佐世保海軍建築部
第四〇四八號	同	(同)	佐世保海軍建築部
第四〇四九號	同	(同)	佐世保海軍建築部
第四〇五〇號	同	(同)	佐世保海軍建築部
第四〇五一號	同	(同)	佐世保海軍建築部
第四〇五二號	同	(同)	佐世保海軍建築部
第三九七〇號	運 貨 船	(同)	佐世保海軍建築部
第三九七一號	同	(同)	佐世保海軍建築部
第三九七二號	同	(同)	佐世保海軍建築部
第三九七三號	同	(同)	佐世保海軍建築部
第三九七四號	同	(同)	佐世保海軍建築部
第三九七五號	同	(同)	佐世保海軍建築部

五

0432

海軍公報 (部内限) 號外

第三九七六號	第三九七七號	第三九七八號	第三九七九號	第三九八〇號	第三九八一號	第三九八二號	第三九八三號	第三九八四號	第三九八五號	第三九八六號	第三九八七號	第三九八八號	第三九八九號	第三九九〇號
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
運	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)
貨														
(船型)														
佐世保海軍建築部														

0433

第三九九一號	同	同	同	同	同
第三九九二號	同	同	同	同	同
第三九九三號	同	同	同	同	同
第一二六八號	曳 (敷設艇型二百五十噸)	同	舞鶴海軍港務部	羅津防備隊	定數補充
第一二六九號	同	同	同	同	同
第三八二七號	重油 (三百噸積)	同	吳海軍港務部	吳海軍軍需部	臨時附屬

0434

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第三千八百六十三號

昭和十六年八月五日(火)

海軍大臣官房

○令 達

官房機密第六八六三號

南遣艦隊ノ艦船部隊ノ經費ハ艦隊經費支辨トス

昭和十六年七月三十一日

海軍大臣

官房機密第七〇一七號

兵器ノ供給及貸與ニ關スル所管海軍軍需部ヲ左ノ通定

昭和十六年八月五日

海軍大臣

第五艦隊司令部及同戰隊司令部 舞鶴海軍軍需部
南遣艦隊司令部及同戰隊司令部 佐世保海軍軍需部

○通 牒

官房第四一八六號

昭和十六年八月五日

關係各廳長殿

「本邦無線電信電話局所設備一覽表」ニ關スル件通牒

今般達第二百三十三號ヲ以テ通信長主管艦營需品定額表ヨリ品名削除セラレ候首題物品ハ各廳ニ於テ適宜燒却相成度

○辭 令

(各通)

軍令部出仕兼海軍省 出仕海軍機關大佐 鹽谷 儉
東京監理官ヲ命ス(ハハ海軍省) 同 辻 幾三郎

第一課勤務ヲ命ス(註)海軍省軍務局) 海軍中佐 南 六右衛門

海軍公報(部内限) 第三千八百六十三號 昭和十六年八月五日

一〇二一

0435

○艦船所在 ▲印ハ「ハホ」ノ
指定ヲ要セズ

○八月五日午前十時

【横須賀】春日▲、劍崎▲、山城▲、能登呂

澤風▲

伊一六、伊一七、伊四、伊五

(翔鶴)▲、(津輕)▲、(伊二三)▲、(伊三三)▲

(伊三七)▲

【長浦】風▲、萩風▲

呂六一▲、呂六二▲

哨一▲、哨二▲

【横濱】筑紫▲

【浦賀】秋雲▲

【館山灣】濱風▲

【大湊】石垣▲

伊五二

驅潛一五、驅潛二三、驅潛二四

【吳】

大泊 ▲、淺間▲、八雲▲、鬼怒、阿武隈、神通

夏潮、峯雲、夕立、口初雪、白雪、吹雪、

朝雲、山雲、夏雲、天津風、初風、霞、陽炎

呂五七▲、呂五八▲、呂五九▲、口伊五三▲

伊五四▲、伊五五▲、伊五八▲、口伊一二二▲

口伊七四、伊七五、伊七〇、伊六八、

口伊七三、伊七一、伊七二

驅潛特五一▲、驅潛特五二▲、驅潛特五三▲

哨四六▲、哨三四、哨三五

櫻野、隱戸

【大 阪】

(日進)▲、(伊二七)▲、(伊三五)▲

(伊七六)▲

國後

驅潛二一▲

【神 戶】

(瑞鶴)▲、(伊良湖)▲、(伊一〇)▲、(伊二五)▲

(伊三二)▲、(伊四二)▲、(伊一一)▲

【相 生】

(驅潛一九)▲

伊六〇▲

【玉】

(驅潛二〇)▲

朝日

【德 山】

那智

【別府灣】

瑞鳳、鳳翔

夕風、三日月、黒潮

伊三一、哨三二、哨三三

鶴見、間宮

【伊豫灘】

千代田

吾妻▲、大井▲、木曾、龍田

【舞 鶴】

海雲▲

鳩、鷲

呂三四▲

哨三六▲、哨三七▲

野島

【佐世保】

(夕雲)▲

加賀、口香椎、出雲

白霧、有明、夕暮、時雨

呂三〇▲、呂三一▲、呂三二▲、口呂三三▲

呂六〇▲、口伊五九▲

哨三九

0436

海軍公報(部内限)第三千八百六十三號

昭和十六年八月五日

二〇三三

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 號外

昭和十六年八月五日(火)
海軍大臣官房

○ 令 達

官房第五七四號ノ四

昭和十五年度新造雜役船ノ公稱番號、船種、所屬等ヲ左ノ通定ム

昭和十六年八月一日

海 軍 大 臣

公稱番號	船 種	所 屬	定 數 別	製 造 訓 令 番 號		竣工、納入 豫定期日	備 考
				製 造 所	契 約 納 入 場 所		
第二三三號	曳 (敷設艇型) 船 (百五十噸)	海軍機雷學校	定數補充	宇品造船所	吳工廠	昭和十六年 六月末日	
第二三三號	同	同	同	同	同	同	十二月末日
第二三四號	内 (火艇) (十五米)	同	同	横濱ヨット工 作所	横須賀工廠	同	
第二三五號	同	海軍砲術學校	公稱第四九五號 代船(定數)	同	同	同	四月三十日年
第二三五號	同	館山海軍砲術學校	定數補充	同	同	同	七月十六日年

海軍公報 (部内限) 號外

0438

第三四號	内	火艇 (十五米)	館山海軍砲術學校	定數補充	橫濱ヨット工 作所	橫須賀工廠	昭和十八年 五月三十一日	
第三五號	同	(同)	光海軍工廠	同	同	同	同 十二月十五日	
第三六號	同	(同)	馬公要港部 <small>(第二遣支隊司令部 部供用)</small>	臨時附屬	同	同	同 三月三十一日	(廣東州)
第三七號	同	(同)	馬公要港部 <small>(海南警備司令部 供用)</small>	同	同	同	同	
第三八號	同	(同)	小松島海軍航空隊 <small>(假稱)</small>	定數補充	同	同	同 十月二十六日	
第三九號	同	(同)	同	同	同	同	同	
第四〇號	同	(同)	德島海軍航空隊 <small>(假稱)</small>	同	同	同	同 三月十七日	
第四一號	同	(同)	臺南海軍航空隊 <small>(假稱)</small>	同	同	同	同 一月末日	
第四二號	内	火艇 (十二米)	橫須賀海軍軍需部	臨時附屬	墨田川造船所	橫須賀工廠	同 六月末日	
第四三號	同	(同)	館山海軍砲術學校	定數補充	同	同	同 八月十七日	
第四四號	同	(同)	海軍機雷學校	同	同	同	同 三月三十一日	
第四五號	同	(同)	第二燃料廠	同	同	同	同 四月末日	
第四六號	同	(同)	同	同	同	同	同	
第四七號	同	(同)	吳海軍軍需部	臨時附屬	同	同	同 七月末日	

第四三二號	交通船兼曳船 (艦載水雷艇型) (二十噸)	同	同	同	宇品造船所	同	五昭 月三十 六年
第四三三號	(同)	同	同	同	同	同	同
第四三四號	(同)	同	同	同	同	同	同
第四四五號	(同)	同	同	同	同	同	同
第一八五號	内火ランチ (十二米)	小松島海軍航空隊 (假稱)	定數補充	同	墨田川造船所	同	二昭 月二十八 日
第一八六號	(同)	臺南海軍航空隊 (假稱)	同	同	横濱ヨット工 作所	同	五昭 月十七 日
第一八七號	(同)	同	同	同	同	同	十同 二月十六 日
第一七三號	カッタ (九米)	小松島海軍航空隊 (假稱)	同	同	同	同	九同 月末日
第一七四號	(同)	同	同	同	同	同	同
第四三三號	内火傳馬船 (十米)	同	同	同	同	同	同
第四三四號	傳馬船 (十米)	同	同	同	同	同	同
第四三五號	傳馬船 (八米)	同	同	同	同	同	八同 月末日
第四三六號	同	同	同	同	同	同	同
第四三七號	橋 (長十二米巾四米)	同	同	同	昭和十五年官房第三五七九號吳鎮守 府司令長官ニ訓令	同	九同 月末日
第四三八號	傳馬船 (八米)	臺南海軍航空隊 (假稱)	同	同	昭和十五年官房第三五七九號ノ七馬 公要港部司令官ニ訓令	同	同

0441

海軍公報 (部内限) 號外

第四三九號	測 量 艇 (發動機附 (十米))	水 路 部	同	墨田川造船所	横須賀工廠	同 六 月 末 日	
第四六〇號	(同)	同	同	同	同	同 七 月 十 日	
第四六一號	(同)	同	同	同	同	同	
第四六二號	(同)	同	同	同	同	同 三 月 末 十七 日年	

五

0442